

□■受験対策ミニ講座 3号 2020□■ (養成所ニュースプラス第9号)

今年には5年に一度の国勢調査の年です。辞書を紐解くと、「国勢」とは「人口・資源・産業など、一国の総合的な状態」とあります。送られてきた書類には「この調査の結果は、将来人口の推計、交通対策、都市計画、教育や福祉施策、雇用の安定化や地域の活性化を図るデータとして活用されます」とありました。「国勢って“福祉の状態”？」などと自問しながら、自分のデータを送信しました。ということで、今回のテーマは「国勢調査」。頻出項目の一つで、科目は「社会調査の基礎」です。

■Plus Quiz・・・・・・・・

【問題3】日本の国勢調査に関して、正しいものはどれか。

1. 国勢調査は、行政の基礎となる人口・世帯の実態をあきらかにする調査である。
2. 国勢調査は、統計法に基づいて行われる。
3. 統計法には、調査項目に回答する義務が定められている。
4. 国勢調査は、日本に住んでいるすべての人・世帯を対象としている。
5. 国勢調査における世帯とは、住居と生計をともにしている人びとの集まりのことである。
6. 国勢調査は、日本の国民についての調査であり、日本常住の外国人は含まない (27回 84-2)
7. 基幹統計調査である国勢調査は、10年ごとに無作為抽出による調査が行われる (30回 84-2)
8. センサスとは、企業の社会貢献活動を把握することを目的とした社会調査である (31回 84-5)

答えと解説は最後に記載してあります。

■Plus Column・・・・・・・・

【英国紳士たちによる貧困調査】

ソーシャルワークにおける社会調査といえば、ブースのロンドン調査 (1886年~1891年) とラウントリーのヨーク調査 (第1回 1899年) があげられます。明治初期に行われたこれらの調査によって、貧困は「個人の責任」ではなく、「社会問題として国家が取り組むべき課題」であることが明らかにされ、その後の「福祉国家構想」に影響を与えています。

チャールズ・ブース (1840-1916) は、リバプールに生まれ実業家としていくつかの工場をおこし、さらに海運業者としても成功します。統計学者であり社会改良家でもあったブースは、ロンドンの貧民街で調査を行い、貧困の科学的根拠を明らかにしました。その調査研究の方法は都市研究の先駆として、高く評価されています。ブースは研究成果をもとに、無拠出老齢年金の制度を提案しました。

ベンジャミン・S・ラウントリー (1871-1954) の父は、ココア、チョコレートの製造で成功し社会事業家としても知られるジョセフ・ラウントリー。息子、ベンジャミンは、産業革命後の社会における人々の貧困に関心をもち、28歳頃からヨーク市で貧困研究を繰り返し行います。栄養学などの知見に基づいて貧困線・最低生活費を算定し、貧困の原因の時代的な変化、労働者家族の生活周期の発見などの研究を行います。壮年期には企業経営者としても活躍しながら、住宅問題や老人問題の研究を続けます。「ゆりかごから墓場まで」の社会保障制度を提案したビバリッジ委員会の委員をつとめ、「福祉国家構想」に影響を与えた人物の一人です。

国家試験では「社会調査の基礎」という科目が午後の1番目に登場します。山高帽にステッキというイメージの、この時代の英国紳士たちの姿を思い浮かべながら、取り組んでみてはいかがでしょうか。

■Back Number・・・・・・・・

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

【Plus Quiz・・・・・・・・答えと解説】

国家試験では例年、【問題84】に社会調査に関する基本的な知識についての出題があります。1から5は○。「国勢調査

票」に同封されていたパンフレットから作問してみました。国勢調査の年である今年、このあたりは完璧にしておきましょう。6 から 8 は実際の国試の過去問です。

6. ×日本に滞在している外国人を含む。住民票などの届け出に関係なく、3 か月住んでいる人または3 か月以上にわたって住むことになっている人が対象。

7. ×国勢調査は5年ごとの全数調査。

8. ×センサスとは政府等が主体となっていく全数調査（悉皆調査）のことで、代表例が国勢調査。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus